

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500238		
法人名	社会福祉法人 つつじ会		
事業所名	グループホーム まえさわ苑折居館		
所在地	岩手県奥州市前沢区古城字北館21番1		
自己評価作成日	平成28年12月25日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;lgvosvoQd=0391500238-00&amp;PrEfQd=03&amp;VerSiOnQd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;lgvosvoQd=0391500238-00&amp;PrEfQd=03&amp;VerSiOnQd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年2月6日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や職員の入れ替わりが少なく、馴染みのメンバーで長い期間過ごしています。それによりお互いを思いやり、信頼関係を持ち、家族のような雰囲気与生活する事ができるようになってきたと感じています。常に笑顔を中心掛け、利用者の皆さんが毎日楽しく過ごせるよう、毎月行事係が中心となって、様々な活動を企画しています。地域団体の方々の協力のもと、ゴーヤ栽培、収穫祭を実施したり、グループホーム独自で、プランターでの花や野菜の栽培を行う事で、楽しみや役割意識、達成感等の良い効果が得られていると思います。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所内や、利用者個々の馴染みの関係を大切にしている。
- ・近隣に住む職員からの情報等により、地域活動へ参加するなどして地域とのつながりが少しずつ広がってきている。
- ・職員は、利用者のペースや思いを大切に考え、ゆったりとした気持ちで関わりを持つことや、言葉遣いについて、より良い接し方を日頃から考えて取り組んでいる。利用者の「尊厳」を大切にしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域交流を図るという内容も含めたものとなっています。理念を意識しながら仕事ができるよう、毎月の会議の際に、職員で理念を声に出して読み上げ、その都度感じている事を話し合うようにしています。	理念に謳われている「家庭的サービス」「利用者の自由や尊厳」「専門的知識と技術の向上」「地域福祉の推進」の内容を受けて、事業所の目標を4ヶ月ごとに掲げ振り返りをしている。振り返りでは、職員一人ひとりが反省し、次に繋げている。現在の目標は、「感染症予防」「心身管理」「余暇活動の充実」で、目標に向かい職員皆で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事はできるだけ参加するよう心掛け、地域の方々との交流を深められるようにしています。また、事業所の備品の貸し出しを行ったり、ホール使用が可能である事を呼びかけています。	近隣に在住する職員からの情報等により、地域行事への参加や関与の機会が増えてきている。年2回の地域の清掃活動(ゴミ拾い)への職員の参加や、民生委員からの案内による敬老会への参加、近隣の中学生の職場体験等を受け、地域との関係が広がってきている。また、施設備品のカラオケセットの貸し出しなども行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習や、他職種の方の実習を受け入れ、グループホームの様子、利用者の方への理解を深めていただけるよう取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施しており、行事活動、サービス内容、施設の現状等の報告をしたり、行事へ参加していただく事により、意見やアドバイスを運営に反映できるようにしています。	運営推進会議の委員は、2年間委嘱し出席していただいている。また、継続して依頼し引き受けて頂いている方もいる。昨年は、避難訓練に参加してもらい、職員体制のことなどの意見を頂いている。	運営推進会議の委員の方は、2年間の委嘱を受けて出席していただいているが、会議内容の更なる充実と、幅広い意見や助言を貰うための取り組みとして、各分野(警察、消防、自治会長、学校関係者、ボランティア団体の代表の方等)の方を招いて、会議を運営してみる事等の取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームとしては、なかなか接点がありませんが、法人としては常に連携を図りながら運営をすすめています。	事業所単体としては、直接的に行政とのやり取りはないが、運営推進会議にも参加している包括支援センターとの関係はケアマネジャーを通して持たれている。包括支援センターが主催する「介護教室」(地域ごとに実施しており、当該施設のホールを活用)に利用者も参加し、知人との再会もあり、いい機会を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束となる行為は実施していません。法人内で、身体拘束のアンケートによる意識調査を行ったりしています。	法人の委員会活動で、身体拘束のアンケートが実施されており、その取りまとめの後に、職員間で確認や話し合いが持たれている。直接的な身体拘束は無いが、センサーマットの使用についてなど、行動の抑制につながらないか等、職員各々が課題意識を持ち、気付きを話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して学ぶ機会は設けていませんが、虐待等による事件のニュースを耳にし、会議の中で話題とし注意を呼びかけています。何が原因として考えられるかという事も、防止策として話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間の中で学ぶ事は、まだ実施していません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに、しっかりと説明を行い、理解や納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があった場合は、速やかに担当上司に報告し、対応を検討しています。	利用者とは、日常的に対話や関わりを持ち、言い合える関係を作っている。家族とは、面会の際に利用者の日常の様子や聞きたいことを記しておく、声かけをしてコミュニケーションを持つよう心掛けている。管理者以外の職員も、より良い関係を保てるよう意識している。運営に繋げた意見としては、行事の際に利用者と家族の食事内容に違いがあり、利用者・家族共に同じ食事を楽しめるよう、これまでの方法を変えて、利用者や家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見等は、会議の中で提案してもらう等し、可能な限り反映できるよう働き掛けています。	定期的な会議以外にも、管理者等に意見を言える環境がある。また、事業所の管理者以外に、所長(特養ホームとグループホーム一体の建物の所長)へも意見や要望が話せるような体制が取られている。職員不足等により、合同の社内行事が出来ない状況であるが、(職員からの意見で、)手当てとして職員に還元することで職員の士気を高めている。また、資格取得のための支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の改善は常に願うところでありますが、人員不足により、ますます状況は悪化してきています。職員一人一人の実績は、人事考課による評価を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加の機会は、人員不足により勤務体制が整わない為、ほとんど参加する機会はありません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を持ち、情報交換を行う時間がとれない状況です。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方の思い、心配事等を聞き、どのような対応をする事で安心した生活ができるのかという事を、できるだけ早い段階で把握するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際や、入所時の説明の段階で、要望等についての話を聞くようにし、希望に沿った支援ができるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の話をよく聞く事や、利用者の行動、健康状態、精神面等について、状態を把握する事により、どのような支援を優先して行っていくか、見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事的な役割を行ってもらよう働き掛けています。中には、率先して作業を行ったり、他利用者のお世話をしてくださる方もあり、お互いに感謝の気持ちを持って、共同生活を送っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、家族の方に支援してもらえる事はお願しています。また、行事の参加や面会を呼びかけ、一緒に過ごす時間を少しでも持つような働き掛けをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理容店を継続して利用できるよう支援したり、ドライブで自宅を訪れた際は、近所の方と交流するようにし、昔からの関係を少しでも保てるよう支援しています。また、面会者が訪れやすい雰囲気作りを心掛けています。	行きつけの理・美容院に行く方がいる。床屋(理容院)へは、職員が同行し、美容室に行く方は家族が対応し、カットとカラーをしに定期的に通っている。少人数の利用者でドライブし、それぞれの自宅へ戻り、家の様子を見たり、近所の方との会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、お互いが良好な関係で関われるよう、職員が間に入って支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養と併設している為、グループホームから移動となった場合は、利用者や職員が継続して交流できるように心掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの要望にはすぐ対応できるよう、業務を調整し希望に沿えるようにしています。自らの訴えが難しい方については、担当職員が中心となって、その方の思いに近づけるような支援を行ったり、会議の中で検討をしています。	「床屋に行きたい」などの要望があった際には、職員体制を調整し、思いを叶えるよう取り組んでいる。新聞や広告をよく見ている利用者が、様々なイベントの情報を得て「行ってみたい」という思いに添えるよう取り組んでいる。思いの訴えが難しい方は、その方の動きを見て、その気持ちを汲み取るようにして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント、面会時やサービス担当者会議等の中で、家族からの情報を集めたり、本人との会話の中から得られた情報により、今までの生活の様子を把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が出勤する都度、一対一での申し送りを行い、利用者の様子を細かく把握できるように努めています。その他、生活記録、申し送りノートを活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング、サービス担当者会議の中で、関係者と話し合いを持ち、より良いケアに向けた検討を行っています。	ケアプランは、原則として6ヶ月ごとに見直しや更新を行っている。状況が変わればその限りではない。利用者本人の思いを計画に取り込み、本人本位のものとなるよう作成している。モニタリングは3ヶ月ごとに行っており、計画に対する定期的な評価が行われている。サービス担当者会議には、本人、家族の他、看護師、担当職員、ケアマネジャーが入り話し合いが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は具体的に記入し、全職員が細かく把握出来るよう努めています。早く周知したい内容については、申し送りノートを活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況、要望に応じて、可能な限り対応できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員による地域行事参加への支援を受けたり、傾聴ボランティアの方々との交流を持つようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医、本人や家族の希望による医療機関にて受診できるよう支援しています。	病院(医師)の都合により、かかりつけ医を変更した方もいるが、基本的には、在宅時からのかかりつけ医に通っている。通院対応は、家族による通院介助の方が4名、職員対応の方が5名となっている。通院時には、「通院メモ」(日常の様子、バイタル、医師に確認したいことを記載)を渡し、家族に聞き取りしてもらい伝達してもらっている。また、皮膚科の医師で往診してもらっている方もいる。適切な受診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝と夕に看護師へ利用者の状態を報告し、連携を図りながら対応しています。その他、緊急の通院の際等も協力を得て対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族、医師、担当看護師との話し合いにより、治療の進め方、退院後の生活について話し合いを行っています。また、定期的に様子を見に行き、病院での状態を把握するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養と併設している為、重度化した場合には、移動する事が可能である事を、入所時の説明の中で家族に伝えています。	グループホームでは看取り対応は難しいと考えており、入居時に重度化や終末期についての事業所側の方針を伝えている。また、同じ建物内の特養ホームへの住み替え等についても案内している。施設全体で、急変時に対する研修会があり、原則的に職員は全員参加している。体調に心配のある方は、すぐに受診し、食事量の減少等を相談し、高カロリー補助食品の処方などがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置等の講習は定期的に受講しています。グループホーム会議には看護師も参加しており、医療研修の内容に取り入れたり、施設全体の内部研修の場で学ぶ事もあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している特養と合同で、火災を想定した避難訓練と、職員の非常召集訓練を年に2回ずつ実施しています。避難訓練には、運営推進会議の委員の方にも参加していただいています。	避難訓練は、夜間想定で年2回実施した。次の4月に避難訓練の実施予定があるが、日中の時間帯に、日中想定で行う予定としている。運営推進委員の方に、避難訓練に参加してもらうことによって、助言をいただいたり、事業所の実情を見ることができた。これをきっかけとして、地域からの支援につなげていきたいと考えている。非常食や非常備品も備えている。自家発電機も備えており、有事への備えがある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、介助の方法については、利用者の方に不快な思いを与えないよう常に配慮しています。毎年1回QOL委員会による、支援方法についての自己評価を実施しており、日頃の介助の方法について振り返り、改善につなげるという取り組みを行っています。	利用者の中には、感情の起伏が激しい方もおり、怒った時の対応について、職員によってのばらつきが出ないように情報共有に努めている。言葉遣い、関わりについては、「尊厳」を大切に対応するよう心掛けている。より良い接し方について、日ごろから考えて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、できるだけ利用者の方から希望を伝えてもらえるよう、傾聴に努めています。なかなか自分の思いを伝えられない方については、毎日の生活の中での行動、表情等から思いを察して、決定を促すよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースに合わせた支援を行うよう心掛けています。その日の体調や気分に合わせてながら生活出来るよう、声掛けや誘導を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、着る服は自分で選んでもらったり、起床時の整容、外出時のおしゃれ等、本人の好みに合わせて支援しています。行きつけの理容店がある方については同行支援し、使い慣れた化粧品等がある方には継続して使用できるようにする等しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備、おやつ作り等に参加してもらい、職員と一緒に調理を行う事もあります。日常の会話の中で、利用者から食べたい物を聞き取り、献立に取り入れたり、代替食、味付の調整等で利用者の好みに合わせた物を提供するようにしています。	食事の献立は夜勤者が考えており、常に1週間先の献立まで考えている。利用者の嗜好に合わせた味付けをしている。郷土食や行事食など、四季折々に合わせて作っている。おやつも手作りをすることもある。団子が好きな方が多く、粉から作って皆で食べることもある。利用者の誕生日には、好きなものをリクエストしてもらい食べている。近隣からの野菜などの差し入れや、自分達でもプランターで野菜(ミニトマト、ナス、キュウリ等)を作って食卓にあげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックし、状況を把握しています。食事摂取量が少ない時は、補食を準備したり、水分は個々の好みに合わせたものを、随時提供するようにしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、一部介助にて、毎食後の口腔ケアを徹底して実施しています。歯ブラシのタイプや歯磨き粉の種類を検討する等し、個々の状態に合ったケアを行うようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、排泄状況を見て、常に職員間で声を掛け合い、トイレ誘導のタイミングを工夫しています。できるだけ失禁が軽減できるよう働き掛けています。	トイレに行く際の声掛けへの配慮を行っている。個々でトイレのタイミングが違うことから、個別的に耳元で話しかけるようにしている。現在は、布パンツ着用の方2名、布パンツ+パットの方1名、リハビリパンツ+パットの方6名で、夜間時も同様の着衣(下着等)で就寝している。夜間に声掛けする方もおり、その方には、定期的に声掛けしている。水分摂取は1000cc以上を目標にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防につながる食品、乳製品を毎日の食事に取り入れています。また、水分を多く摂る為の工夫、飲むタイミングを工夫し働き掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調、気分に応じて入浴できるようにしています。時間帯も利用者の希望に合わせています。時々入浴を楽しむ週間を設定し、入浴剤、音楽、浴室の飾りを工夫し楽しんでいただいています。	入浴を楽しんでもらえるように、期間を設けるなどして、入浴剤や、音楽をかけたり、浴室に装飾(富士山、桜の花、紅葉の絵など、銭湯の雰囲気)を施して喜んでもらっている。季節のお風呂として、ゆず湯や菖蒲湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの部屋、リビングのソファ等、個々の過ごしやすい場所で休息をとっていただき、落ち着いた過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬局からの説明により、服薬の注意点等を必ず確認するようにしています。確実な服薬管理を行い、服薬後の様子観察も、十分行うよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事的な作業、個々の趣味活動、行事、散歩、外出等の支援をし、毎日楽しく生活していただけるよう、日々取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は、できるだけ外出支援ができるよう努めています。利用者からの要望で、イベント見学に出掛けたり、天気の良い日はドライブに出掛けられるようにしています。	全体でのドライブなどは、春のお花見や秋口の紅葉狩りなどがある。このほかに、事業所へ演芸会で来てくださる方のショーに招かれ見学しに行った。「よさこいフェスタ」(7月)も見学した。日常的な散歩の際は、近くの田んぼで仕事をしている方との挨拶や会話を交わし、関わりを持つよう努めている。通院時に、寄り道して食事等をするこもある。「あやめ祭り」のチラシを見て、「行きたい」という利用者の思いを実現に結び付けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談のうえ、財布を所持している方もあります。実際にお金を使う方は少なく、用途は、工作の材料等で、職員が代わりに購入して来たり、本人が出掛けた時に買ったりと、その場に応じて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があった場合は、すぐ対応するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、行事に合った装飾を行ったり、花を飾ったりしています。また、快適に過ごせるよう、明るさ、温度、音等への配慮も行っています。	居間のテーブルを真ん中に1つ置き、互いの顔が見えるような形で食事をとっている。席は利用者ごとに「お決まり」の場所があり、それぞれの定位置に座っていただいている。装飾品も、季節感があるものを飾っており、飾りつけを職員が制作していると手伝ってくれる利用者もいる。テレビの音量について、耳の遠い方は聞こえづらいことから、ワイヤレスのスピーカーを使用しその方への配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースはリビングとなっており、テーブル席やソファで、それぞれ利用者同士、職員も交流しながら過ごしています。天気の良い日は、ベランダに出て日光浴をしながら、楽しく会話ができるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、それぞれ馴染みの物を持って来て頂けるよう伝えています。利用者が家で使用していた椅子、ラジオ、テレビ、使い慣れた寝具等を持って来て頂き、少しでも安心して生活出来るよう働きかけています。	居室には、ベッド、タンス、床頭台、エアコンが備えている。布団類も、利用者によっては毛布などを持参している方もいる。趣味の作品(手作りの折り紙など)をたくさん綺麗に飾っている方がおり、思い思いの居室づくりの支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を支援できるように、トイレや居室の表示を大きくしたり、手すりを設置したりし、建物内部を工夫し、改善を図るよう取り組んでいます。		